19
3869
81

暑苗

へ9
3869
81

81
別 3942 15
特 3869 81
大正七年十月寄
室井平藏氏贈

# 古代〳〵仮名

色葉のいろはを
書き集まれる
所の類ひ也
おくこゝハ法の教〳〵所の
幼女や少婦の耳目ニハ
の名葉ハ
ゆゑ出ニ
おく〳〵ハ正説
かさ紙と
鬼の端所ニ

結びきせ給ひ
さて見ぬ夫婦人を織る
のぬぼ色と成る世の中
さるふそとくさかんの笠山
九郎せし侍所の手柄さ
七五の高ゝ地人のまゝを
ゝ被紙新教道常
ゝ長おうゝ前尾し
乾坤男女の童ゝまでし五顔
相通の夢を覚しさまら

細文る風巾の京自紙
ゝゝセ入繁せ繁雑
陸あゝにこの糸かひよ
きるはぬ量むゝ色ゝれ
さゝ浮さゝ思はゝ山
の世界ゝゝおさはゝ
御代の者がさゝ演の墨絵
さゝのぬ桜のい色ゝ
はふ郎ゝの山の美ゝ
ゝのゝゝそのハ美しう成

二月廿六刊

強羅ほとゝぎす
少人

文政元年とうし

二月二十九日



新蓮寺

早苗とる

東京歌舞伎菊英選

岐んで

扶　ちゝ母ぎ　慨　買ひ

すぐ居きるを　袈裟　掛る

宮ふ嘶の根い　塔ら　毛ま

ちゝ母　毛　入る　神仏

信出れ　明生　ひふ岩戸

仮名てゝヨ書　教意味
張子　皆ナカ仕ク　記ス清ヤ
猪ちゝの卵ゝ　乳母
教文の賢ク　紙ハ無ク
里一ちゝし　和ゝの西
清く　ゝゝよる　教ケ
春の日　古布子
義入ゝく日を　細
ぬゝゝ　ゝる　主所の子
ゝゝ

子小懸ゝ入ゝ梅の小袖
心の分ゝ　記名　号
仕ゝ　下ゝの根
和尚ゝに興る　信濃の竹
尼ハ無し　春の猪
車の長ぶ　日向ケ村
二ゝゝ　ゝ
冰る間の　車
猪ゝ　乳母の食
喧嘩　仕ゝ　若ゝ文

[illegible]ケ[illegible]れて居る　小佐

[illegible]思モヤ

[illegible]で[illegible]の[illegible]　彦[illegible]

[illegible]分の[illegible]い　[illegible]

行[illegible]遊[illegible]喰[illegible]　甘[illegible]

きの[illegible]も[illegible]の白し

秋も昔の有[illegible]　又

夢[illegible]て

[illegible]のこと

[illegible]加山



[illegible]うと[illegible]て[illegible]る　絶句

[illegible]ひ[illegible]　柳子　柳子

[illegible]

永の[illegible]く

法[illegible]　[illegible]ケ[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]耳よ　[illegible]俄[illegible]る　仲士

[illegible]灯[illegible]て[illegible]る　[illegible]

[illegible]を[illegible]く[illegible]戸[illegible]風呂

少ト自[illegible]　[illegible]

[illegible]面を[illegible]る　[illegible]の[illegible]

法皮を紙ス　竜の毛
[illegible]の風ふる　古用千
肝と一つ和と　梦見る　鬼
年　借りて出　戒名坊
稼　[illegible]ふ　[illegible]　嘆
胡蝶　[illegible]す　[illegible]る　三安
芝園　[illegible]と　嘆ぶ　我子

[illegible]又

[illegible]ら逃ぐこと世　迎ケさ[illegible]
宝[illegible]ゥ　[illegible]　春の[illegible]

釜で夏安の[illegible]を解
屋住イて[illegible]る　[illegible]住の子
精進と　[illegible]く　[illegible]され
芝居脊中て[illegible]る　[illegible]子
子[illegible]る　安ス　三安
今言で言を[illegible]る　[illegible]服
[illegible]で[illegible]れ　不仕合
[illegible]　切[illegible]引　三安
前歳[illegible]れと[illegible]る　役者
[illegible]

仲居を扶よ玄ス留ち居
[illegible]きかして寝る夫婦
[illegible]を下りる 朝見
三毒を捨て 脱ぐ 被衾

[illegible]

[illegible]ト の 鶴よ 生し
[illegible] 同ハ 妻
毎ハ 会ふの 出ず生
[illegible]の 者 仕る 者 毎
[illegible] 仕る 者



出 [illegible] る 者 毎
[illegible] 聞く 者
[illegible] 遊く 天社 日
[illegible] 代を 仕る 猿 [illegible]

去り 遊ハ ハ

[illegible] 国 る 町 [illegible] 月
[illegible] 新 [illegible] 猫
[illegible] 振る
[illegible] 下を 掃く 牧 [illegible]

あるかく 小説家 笠原香
濱く乾 鶴子仕る 物語
行部 筆を 鳥のごとく
さく江戸 曲る仕さ毛利
下戸ハふ 粹か 六の亮
下児乾 ぬ 水の音
男が ぬぐ 蔵 薄ね織
乾く 月 水 五月雨
下つて 長る 濱の 蟬
血の 曲 鳴 小説 竹

ようい女房 母 るるよい女房
踊る男を 見る 恋人
母の 乞 時 む 嘉
神で 香をする 相撲 園

唱ふ

又の 酌 仕る 加 塔の 日
我が 新し 自を 法 師
るよりも 濱 乾 世
目 桜の 出る 十 呼る 又

秋の空見て居る寺の間

髭へ手の行一芸の身力

人の[illegible]号鬱屈屋

遺張子除る桐の山

泣上戸して行別る噺

加減して

[illegible]の[illegible]松[illegible]

[illegible]一方下の[illegible]日風呂

世に風呂[illegible]ふ[illegible]の舟

[illegible]ハ[illegible]　晴花色

[illegible]へ建る[illegible]白

[illegible]の[illegible]る　[illegible]

呵る[illegible]て　行[illegible]

[illegible]　[illegible]子の[illegible]

[illegible]へ[illegible]ふ[illegible]る　嫁

気晴しに

人[illegible]一[illegible]　[illegible]

[illegible]惣[illegible]い　[illegible]

蒙塵して吾妻 御居
一日 内裏 百姫

所詠

春雨降る 雲霧立
姫の気 高砂
道者ぶ 入る時 色の日
長に住る 戻る 汁 仕業
琴の音 長る 花車
仲長の 連し 絹布 均



鶴 お連 詠りの 貢
松 陸の 蝶
春の 時 花の 鶴
蛙 る 出る 西 嶋
月 出て 帆の 絹布
雁 出る 長 の 絵
海 鶴集の 仕る 汐干

奥 高

河の 月

物うすいとゝ　瓶子弥勝
[illegible]の[illegible]の[illegible]　むしろの
[illegible]　[illegible]
[illegible]ふ　風の[illegible]
松島　[illegible]の[illegible]
赤い[illegible]　[illegible]代
[illegible]　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]て　[illegible]
[illegible]て[illegible]る　[illegible]
[illegible]で[illegible]　[illegible]女[illegible]

[illegible]し　むし　所
伯父の[illegible]ふ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]の[illegible]
永の　傾く　下女の[illegible]
用水桶を仕[illegible]　小便
[illegible]　女人堂
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

日祝ふ

同行の語さ　竹生島

小橋飛ける　若女夫

表に遠し　常寂人

雲舞出て見る　比叡の花

琴の音のする　若の香し

夜琴を弾の　遠寂行

見ぬ行てする　旅の宮る

旅うら　旅く　おりひ有

陰者の爲家　源氏ものの

ぬぐ幕切　能の劍

伊之の生涯

完一姫ぐ　源氏

小信ハてれる　毛唐箱

おたうの孫る　絶物に

種く書稿

魚下く　毛ふ　一膳のかど

義陽ぐ下て

遊て遊人の子合仕る 疱瘡する
元の世子 仕る 吉原の 藏
一人 百 出 後の 母
出生る 出世を 吉兵
陰 仕 に
三度 ふ 三 百日
一度で 出世 仕る 吉兵
病 の 吳て ゐる 高雄
二十日 餘 出 ぬ 開帳

手野 九仲 て 藏 後
陽 ふ 翁 出 切
息子 元服 吉兵 下 兒
切 仕 孝行 仕る 吉兵
ぢ ぢ 二度目 高の 舘

又 狂 前
牡丹 出て 居る 吉兵 人
切 陽の ひて 居る 庚 後
屋上 て 藏 出 切 藏
本 妻 の 藏 る 藏 妻

平家の張本の公卿紀
さるぎの中納言藤原成
法印戸の水心を尋ね伯父
さのまの新左衛門尉藤原
法師が浮いて座がくる

いつ迄も
ながれ合撃
目出度ふ行
ちらるの命の

主人
行む人
恋ひび

一つの池を
動南のくるふ澄の猪

女夫池

恋ふ居て

恋岩山高くる 鳥の上
古佛ぐほそくる 五大尊岳

法会で

稚ぎ子ふ出る 孔雀菜ト
我ぐ名の花を見る 観堂

歳暮祝儀で送る者祝儀
まち鶏鳴ぐ　奴行灯

別くか

お深ふ　ふ舟一のせる　母
離の　女夫をたんきがら
別れ　なが　ふる　涙と　舟
策　と　夜ハ　天の川
御愛を　ゆる　離
きゝる　一ツ　提

大切な

生涯足て　忠実者
水らなれる　ちれハ　鄙
ちつきと

教入の　脊の　年行
子と　日を　桐の　尺
秋作の　生る　瀬戸物屋

すゝ　ゞや

朝日を　ム　月見舟

[illegible]踊る[illegible]の[illegible]
[illegible]の名で[illegible]
[illegible]

みさを梅

大方が信　如の安
[illegible]の[illegible]掛り人
[illegible]　百[illegible]
[illegible]
[illegible]の
[illegible]

[illegible]弾琴[illegible]
[illegible]陽[illegible]
[illegible]
[illegible]人
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌の唱へ出んで暗きを
文盲にでも用ゐる所新説

石味の糸

語れるそのきせる糸で底
思ひ出さして新戻そこの
俗人の目でむなる騒ぎ
ヲヽ乳もとまされ歌謡
新しさハ歌謡ついてゐる
新しさ　高浜舟



鶏鳴根岡ひ打てそらを
陽の沸ぐ揺れ繁
憂鬱ルとのさて初春
歌ハをよ新ツ動乳
歌ハ乳ぐいそぐ
法華になつてから鬱紐
鬼打唱ふ火の滑り

砂糖湯

蘇伝ようふ　海

こゝ[illegible]笑て[illegible]
[illegible]むよ[illegible]
後の毎 [illegible]
[illegible]折[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]のも[illegible]
[illegible]
水[illegible]
いつよ[illegible]

長雨の空

[illegible]の[illegible]
[illegible]二人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

浪[illegible]

日小雪の[illegible]杉杞の[illegible]

弓る杜丹の根を問ひ人
鶯で死んだと笑ひ合ふ

日本の　際　湖水

横よ一羽　思葉の体
藤　芭蕉の耳で聞くこと
根よ　芭蕉　蘇生

ひの音ヨ　音ヨ　聴
流の流れの　糸さら
蛍が鳴く　若の雪
情い若思て　ぬぎすぐき

雪　蓋の有る谷　名
名高ひ　瀬元の上戸

松吹音

鶯　新の すごい百合の妻
神が　杉を　人よ　逢ひ
鶯い　花実を　忘れう孫

如　主人の　物
御　浦ふ　いさるを　品
海　杉さ　鶯　勝ち　河
星　芭蕉ぎ　蕉　蕉　脇

燒肉よ矣数の新画馬
謡勝るハ　十二四
金蝶の住居よ　祇乐
何か孫く魔の元祖
旦下の勾で　智の家合
惣くへくなくて来る小判
元上ア　竹仲仕
明火を考ス　流る雲
朝の明方
拙る

すびの光る　年中所
加減して
嘆で産ム物る　始仕ニテ
考くに氣の付　ものを
無ぶ揃ける　恋の陣戸
今更ス　眼に見ひ
鶴蝶でなん　明
考ておりよ　紙恵の
女白房ス　大頭花
面の美改を　女白房

記の通り　大井川
両ごしゃ中て
渡しを仕切る角力場や
墨の川　越す　越し切者
道子の山　中井行
乗り
又長を切る　高の畑
越す　上戸
信濃と　姫と　流れ
御嶽を　望む　隠れ里
岩の陰て　角くて　暗



神代記
明の紋の峠　本ゆく
縁りて行　第一　姫
一明と　藤る　当るの妻
清らの水
加賀　部大工
男山に　月ハ　実ケ
上下て　流む　宝る
大きを
右京が住る　井戸の鬱

まで歯も白キ金風のるまで
ぶらぶらと
暮さる 一日流
ぶらぶら暮をたらす 調
ぶんで くふた合
待ぶ仕る 濃の書
なおさら 稽 粟
石櫃をふむ 蕎麦の殿
金子を手てゐる 合馬
コリヤ嬉しい

四とせ年ゑ年 暮て
百同の元る で百同ゐる
志賀で 隅田 夜 両
永ぶおて
蕎麦屋のむ 江のまど
三里 暮陵を 吟て 進風
車の音の 出ム 二夜 業
目出なく
るを知 入ルリア 延ヒ
陸奥の 陽 で 暮 美

隅の家濃　樹
矣ごとあり　川　水中の糸
松　を見て
古里一迫い　一里塚
孫の新月　大原君
芝　離しの月　懐る
預ってヤテ、
一日世三言　立が　さん
陳列　矣　長る上戸
鯉　魚　逃る　鱧　舟





晋く　齋
世界　人の
嬉　れ　る　一別宮
雪　行く　道奥方
ふ思　ふ　ふ　一
子　い　て
新　を　ん　妻の秋
を　で　一　七　九　深
妻の死　孫　ん　兄

芭蕉の葉ひ仕る妻
女夫蕉んぶ　女敢タ
花で白髪る形書久
汁清さ也　老女言
汗塗り
蛸い花を　出る天狗
喰ひ法う仕る他者
京れ兼ム
大根花よ　むく　庖丁
手際で味の出る料理

小紋着て居る京の者
女だて
馬を自由ま　孫る柳吉
嘶貧乏ケ堂　人ま の侍
貢ぎ　ま　勝　多張の張
人ぶ　し　岡　西
二ま　刺し
俳ま　酷ま
芭ハ　ケ色
ま　花の花
ま　海

世利市に奏　紙の面ン
紙道を行　上高さし
ゑみをを下をる　淵の所
　　親年でも
芭蕉の場いよ　歌を和
を花を踏を　自然する
上達へ也る　　成講
　　さんとして
さを夫の孫る　曼陀羅
地獄の嘶きく　お山
御滝宣伝く　分仕生活
面仏を切る　大酒屋
　　次第く
　　壁の上にて　高新道
出生所学　大芝居
　　連のるふ
　　物し御しる　結ん　する
　　を夫で奏て　仕舞を花
　　花り琴を
　　新ふ　妻
　　立ちるの

宝寺藤之丞　橋の上
知りもしらぬの　林之助
百姓ていなる　ものと答
ふてかれて
死る仕舞る　傳者の仕
合をも　はんで死ぬ　勝負
舞へ　清さ　新ぶし
でもし
清蔵かける　行燈の謎
解かけて
のうるお心の仕

歌汁　呼ぶて居る　女史
まひしや　紙
歌よ　謎のはる
各の所の　仕たるこうし
ワイ喫さん　ると　お酌
歌を　外て
踊るも　遅しと　鹿化粧
踊よ　遊てる　京の舞
扇　おチ
独吟る　出る　高砂屋

物言ふ例ふ事ナキ　陰仕
一番で急ぎの場合の安
ヒし姿や

大井川越えて玉造者
姿かくさるる光る船
ほの暗く撥る光る船
松へ行く　顔の色
千年の歳を見る水
夫婦ふ

姿ぶる船形ハ
西瓜茅を知ス角力場
撥ふしのあること　風車

大名でも
真剣を振ふ　鍛冶
火を強くして知る巨燈
白黄ーてすむ　見ること

朝の日うつ　武士の苦
鄙の宿
暮の乾　咲ふ　惑ふ

雪の戸開くいらもし今
宵
嵐ふく山吹揺る
まで於い女の節季哀
嘆きを
揺ふ親
贅ゆゑ
親へ戻りて矣保の妻
倉詣嬉しう福寿
草よ青柳る妹の
いつそん



隙取りを幕る仲居
手伝で日暮れ遊妻
百万屋の知るへ 桜
夢ぞ八ふ吾 上加屋
浮世
子ぞ者々遊ぶて法
鈴し 雲 俗の歌
中掛ひ於し 琴の音
見ハおうへ
仮病ぞ曲線の節

[illegible]の時をつゝ[illegible]

紙くゝと

毎も一口[illegible]を解ひ

[illegible]で[illegible]の名が高ひ

[illegible]

[illegible]も[illegible]

大[illegible]二[illegible]武士

[illegible]

[illegible]の[illegible]

中[illegible]の方ハ[illegible]

[illegible]つゝ

[illegible]で毎日る

[illegible]ハ[illegible]れど

行[illegible]

[illegible]口[illegible]

日〳〵

[illegible]れて[illegible]む

[illegible]の[illegible]

[illegible]の色[illegible]て

[illegible]の[illegible]

京の[illegible]

[illegible]

[illegible]道者

[illegible]持

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

むしや
貞女感(かん)ずる 焼(やき)継(つぎ)を
風呂ふき喰(くら)ふ 浪者の子
子孫(かん)に云れ 拾しも
百姓でも
綱(たな)はさんづをいふ太和
獅湖(しゝこ)誉(ほま)る 畠の鯛
大小縄(なわ)さ 御祭(まつ)り
まいれど
矢橋(やばせ)まのふね 又舟ゐる方

旅食喰ふて釜 蛍(ほたる)売
附あつて来る小僧の手
五間(で)の舟がいそぐ 嫁
婆(ばゞ)は隠すまを 門(ひん)生
敷でも
孫(まご)の多い 日の茎り
黄人斗りハ なん 小原
北は茎の瓶い 数多
鯛のさゝへ瓶 浮生
おかひく

曉の鐘にいめくる夢
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]の陰で悲
[illegible]もいの[illegible]陽山
[illegible]月雪ら[illegible]源と[illegible]孫
[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]る[illegible]る[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]月の[illegible]
[illegible]る物は

さんの[illegible]を[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]ふる[illegible]の[illegible]
[illegible]ハちんて[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
時[illegible]る[illegible]ハ[illegible]
[illegible]遊[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

子の字で呼ぶる時牛

花は散る

鶯の尾を振く程こそ

我が世なれ　なんて花を

偽をなのる行逢ひ

玉ゆかしの人沖う

恋しさよ

日〳〵ゆるむ　琴の尾

柱女の手を絡又嘉ぐ

濃く老る　鶯の笛

納涼

戻り花を紫の牛

蓮流

二ツ出て

手の行を戻して鶯の

躍るが見

うの花

忠と　言の

大矢数

入る　鶯

百る花と酒の

むらぶ

岡果の枝を

傳の鶯　掛く

庭の鶯

麻酒の味ひ

茶道果て

ほとゝぎす

まゝ妻 郭公 妻 妻

一人 稚子 ヲ 稚女

歌 ゆすらうめ 唐臼

梅 ヲ 和ハ 船 遠着

金 ヒ 蛭 ヒ 蚤の蚊ひ

ノたく

巳 経 ヲ 戸 堺 醫

俺 ひ人 ヒ 又の矣ひ 妻

嘉 若 吟 大石 梅

支 船 ヲ ヒ

門 遠 遠 る 船 ひ 延 髪

酸 妻 花の咲 やり ん

僧 法 仕法 ん ん

ひ ん る も ひい 孫 入

花 ヒ ひ

梅 も 土 鄭 ヒ 蚤 ひ 休 居

ん ん 嘉 す る 角 力 ヒ

す ん ん ん

ヒ 猿 ひ か

如 一 鄭 ヒ ヒ 嘉 ん

秋ちゝ

隅田川越スル者

十月ノ隅田の

舟下

へのぼるとかく

富士の山

雲川下ダる

井筒

寄り僧

子ゴ乾ル那ノ

清の乾毋

花も繽紛ル

花也 桃

ほろれ隅のそ

雨戸

知ラる山形ちゝ

庭病



那ノ寄ノ

室の君

君をお向ふ

茅元舞

扉のつゝ下

花る 芙

光ゝ原戒ル

西瓜 后

隅の沼ゝ

ぞ也ても

新で澤ゝ

水流 黄

揚ゝ壹信る

夕顔 咲

ゝ新信の

ふこの山

吉野ハ 花の

隣ハ隙なで 掛ヶさせれ

[illegible] 嘗ハ [illegible] 嘗ハ [illegible]

[illegible] 会ねを [illegible] 若 元

[illegible] 若女 支

[illegible] 掛 [illegible] 爺 牛り

[illegible] の [illegible] 二人連

会 [illegible]

人 [illegible] 稲 [illegible]

加 [illegible] 的で [illegible] 毎

逢のる

[illegible] 細仙の像

[illegible] 子 [illegible] 新 [illegible]

如も [illegible] 子

御所 [illegible] 所 [illegible] 名所 [illegible] 嘗 [illegible]

上 [illegible]

[illegible] 下 [illegible] 角力 [illegible]

久 [illegible] 道成寺

[illegible] 思 [illegible] 彫 [illegible]

屋ゆき

ちらづかをかう茶屋所
捨子の夏を　見る庶者
入相を学　芝居影
化されて居る　鶯の
庶遠でさうぐ侍衆
絵くと　鯉の寸
少しで話　ある俗
むちんぐ　拾る
歩引ひる　物好屋

殿の書の所へん　地下
乞食を手イて道ゆける
晴とする
人の字　繋ぐ　千ン
大剣　切手　駿遠元
日の陽に　馬を所
毎と　拾つて　磯の白
嘆くに　ほけの　結ぶ　懸
懸を　遠て　張家絵

井の水よりもまさりて
色合かるる　紙屋梟

哀別て
遠国の下女お鶴言葉
変りの嘆さもむつまじき
三川のまん　関の茶屋
高沢の母　新鶴屋
水鶏　仏こも　駕籠
妻乞の簾も　駕籠女
ふこと　伽羅尼

訪ふ移り住て　訪至
小櫃尾川　寄の海
ふもめ字を向ふ子の茶

俳ケ加ケ
ものもうど　嵐う出る
花の時枝を見る　寄せ
茶の日を関く　猫茶
柳ちのめ　色恋
見ぬ　利害て助ケ
柳らして

陳を過く　雪の井

我が宿に　沙弥

山を指ざし

鶴で六旅を行ツ　妻ヶ

昔を偲ふ　浮の宮

紅葉のうづむ雑賀の

駕を進める　士俳の徒

ちるもの高きと

菜の芽も長ちて有ルロ

雪消ゆる　妻の看

関の長ち　寿貞

引かれて底の深ける寿貞

粋を利き　井泉

稽めて見る　汁賀し

きらきら愛書　中月堂

夫ての森酒へ頼る多源

庵の名ゆゑに俳聖者

仏ぼでも

親しみのかるる　雪の敷

彦見て吉ちぬ　妻の敷

流れ行く家路を去る時
屋ふき角張る清流 詩歌

京都の山けう

歌 山を横切る流れ渡
近所を所々する菊かさね
風味の副る 家人 朝
嘘〜 杉を 高きる 母
うる美 濃ふ 語る 屋
主婦と 見る 家 高い 屋
夫々ふ 潮 さん 聞ふん

歌 向ひて

俗 杉を 出 及 百 屋
降る日の 嘘 葉 南
頃 屋 主 所 月の 女
洋 書 屋 仕 歌

きんこの
禁酒 仕て 屋 婦 屋の 後
世 継 墓の 高い 後 家
話 欲 でん を る 富 僑 都
屋 麻 ふ 遠 古 下 女

いとけなき者がる吳服人
吳服屋の樣まる病症病
門口を叫て云ふ言葉
甘味が仕度ふ法美家眞
雲雷屋ふ　悪い病
七月雨の戸ふ　困る　毒
過らと在る能師の子
大工を養て　病る　水屋
迫い一家へ　遠い姉

かさ立て

悪うきさ言葉　丁子
煙草屋が　すうた　潔癖の樣
家のまの門を　浮く　質屋
照住へ　拂て　出る　洗拭
腰紙の　つの　芸女房
下るを入る　行ひ入　仕
好き悪人へ　藏を　拭伝
恵くがうる　百節用

例の好
まらまの　遠へる　別紫

時に矢尻孤子蔵
是づか金子つむ別業を
所法皇より奉度いとや
所望の之ふ奉ふ
女夫ゑ宮ゑさ 十日市
御京物を 婚の茶屋
妹ゑ者をさ 石女
忠子ゑ所ふ門松屋
ゆいたゑと
日光かけさ 女蔵

等解ひて麻る君の御代、
ゑこゑ百見る 馬の上
眠ゑも眠ゑ行 無ゑ
叩よのゑ生ゑ 桜ゑ
縫ゑで 毎の欲
痛を屋て張る 関の毎
押金ゑ麻る 磯戻
お山を抱て 祝る家ゑ子
玄光の行る 多蔵爲
優ゑ胡麻をする 死ゑ

元朝ゝ春る　犬拾ひ
旅心へ入て　春見の岩
拾竹ゝ　神風宮の史
十五夜で　春る　粧
春を待也　住る物
花見の宮ゝ　ふゝ　花見
多ゝで　祝ゝ　子の結
絶景　写ゝ　宮所を建
笑列をて
餅ゝ　ゝ　ゝ　ゝの麻

きゝ　ゝ　祝ゝ　雑月女ゝ川
源氏のゝ　ゝ　流　近家
近所の　ゝて　暗き氣
獨ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　玉のゝ
麻の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
春　ゝ　ゝ　ゝ　戸口の神
ゝの麻　ゝ　ゝ　ゝの風
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　舞
物　ゝ　ゝ　住る　月ゝ
俳句　ゝで　ゝ　ゝ

[illegible]の[illegible]

一月書イテ

自ゆるふ上こる公家の[illegible]

[illegible]られて[illegible]振る　牡丹

[illegible]の[illegible]る　[illegible]菜の白

[illegible]の新の　[illegible]日記

[illegible]の[illegible]る　仕る　皆

[illegible]ぶ[illegible]る　[illegible]条

日[illegible]

日で[illegible]　[illegible]

[illegible]ぼ[illegible]く　[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]イテ[illegible]る　下の[illegible]

同[illegible]ぼ[illegible]　[illegible]羽　[illegible]

[illegible]の[illegible]を京[illegible]新

[illegible]も[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]詔

[illegible]

[illegible]を[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]京

[illegible]で[illegible]　春雨

分の終をとゝ無行に待
人を乞ろ〜かゝる 鶯も啼
女まつ さくる 弟長し
雨の降り 怪をし

小町 行て
旅者の宿る 鶯の聲
客遊 都に 相陽卿
深林へ 桂に 月かゝ
小判 道具 住る 屋
晒 のき むいうる

春ら〜

向い 近行 下駄の音
梅も 香を 恨を 杜の音
桜の 咲 盛る 世界
世 之 之 十二 洞
皆 鶯 の 出る 馬 場
寺 ら ど ア

老 賀 で 有る 砂時 雨
堤 に 踏 で 解ふ 妻 の 父
所 色 の 聲 る なる 上 戸

道すがら

墨よりはさきに寺参り

江戸で願ひかける碁の墨

江陵より夫人の遠り人

ちまたの花より 懸の遠

車の内の 物がさを

ふをかしてみぎてもし

家蔵の内へ入こ

ぶを敷く 簾物をば紫

ふもとも 明ケ らんば

提灯つむ 小風呂敷

一ト両 巻る 顔うら

記くした

女主 蕎麦 女敬

鍋と 芝居へ 別宅

お人会の 昼一ぬ 仲居

亡家へ 行く 帰宅

八形へ 寄る

お山賢イ

翌日 蕎麦を 昼ふ 夜注

寄せて 居る 新上り

淺ざ[illegible]ゑ[illegible]る　鶯[illegible]

京の[illegible]解く　八[illegible]宗

[illegible]所　巡る　遠[illegible]書

[illegible]形　指ロ　指ふ　初陳寺

曲[illegible]ふ

[illegible]流を[illegible]ゑ[illegible]る[illegible]人

[illegible]さ　移し　[illegible]　別業

[illegible]の[illegible]る　俊[illegible]

[illegible]紙[illegible]る

[illegible]し　[illegible]尺[illegible]の白

[illegible]人の[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]所　住[illegible]

大名の[illegible]　羽　[illegible]

[illegible]構で

[illegible]の[illegible]　上[illegible]

[illegible]る　[illegible]

[illegible]の[illegible]　日[illegible]山

[illegible]

[illegible]　自[illegible]

[illegible]の羽

額し　額イ　翰　そこ

内から　ひとまふ　雪の箱

ふ除法　ちらびる　ちらの礼

第　ちん　上月

かけの　ひ　ひ　長谷　妻

意の　ひれさ　陣の　雲

白眼　ひ　ちる　矣　ちし

列除の　門て　住　紙

かちを　結　出さ　姑

死　髪　ふかて　生る　小紙

格別じゃ

女妻の　ふ　ハ　ふの　ふる　帽

清　笑　ら　問　ん　京の水

枯木　ら　花　の　雪の箱

絵紙だけの　関角力

庭の　義　住る　松の龍

顧　さ　ら　ち　雲　関

関除　花　ら　水の妙

ぐ　ず　し　書　ぬ　小紙　ら

元　ふ　ら

二

四十七

[illegible]をいとぬい[illegible]
[illegible]に[illegible]るを[illegible]ふ服[illegible]合ぬ
るを[illegible]さ[illegible]の犬の[illegible]
雪の[illegible]に[illegible]ら[illegible]
出[illegible]ら[illegible]
[illegible]色て[illegible]る[illegible]
[illegible]王の[illegible]れ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]へ[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
又ゞ好んで[illegible]
[illegible]ハ[illegible]用
[illegible]の又ゞ[illegible]
出入久しい[illegible]
[illegible]代ゝ[illegible]
雪[illegible]の用
[illegible]毎
[illegible]
[illegible]毎抱て[illegible]

臣燈の上より吊る深物
長立て
てア寺と言ひて 浪人
本家の妻の 隠い家ら
鶏の踊り 法の色
芋ぐづき色
紫橋と解る うしの山
曲橋の丈よ 尾かしら
姉ぐ〜 流て居る色
彩雲をそいて居る 西洲

さハ解て
河髪の色の下女郎で出る
鯛ハ味がる 大和岩
賞て戻る ほる掛
水鶏の叩く いほりの戸
毒宅で 出家の矣し
慣られて
熊笹も 新やら 岩ちら
夕のなる 昼も 日高川
鶴姫君を 入る尼

## 婚姻義む

ふこくと　雑男

耳を引うたる　甚所

出歩の魂　遠年

山年房　賞ヨリ　行徳出

八方の例で　出るなり

紫苑の草　急て行

小信を呵る　秋　兼用

右ると　大を　入る嫁

呈脂を呵る　大年目

飛じ中て

嘆つる日の　お山

歳暮の中で　新年

新へ　ぼそ　ぐうん

余所で上戸の内で下戸

年酒を　酒を　逃げる

婿の体見へ　入る　妖

告行く

麗間　雑竹屋

余つ注へる　大字書

小僧さまの　酒の肴

たんとうて

所顧の時ひ　多田の院

参詣もうむ　参詣こと

料理博士ゆうし　物

さうつき　新宅場

見ハかうい

親鸞　成講

聟殿の　乗師

一子出家　仕さ

牡丹唄ひ　吃り

[illegible]

世を捨て　信の義ふ

はうで　犬ま　優者ま

元の書生　ま　妻

高岩　死と　ま　妻

文盲ま

喰ひ　仕て　教仕候ヒ

仏の高と　物　柳

高ま　死ぬ　千鶴ま

名ゟ情へ

膳をすゝ仕る　雑兵宮

麻裃召されて座敷　望

河岸で自然　閑雨ち

山アゝまる　物見とゝ

鬼も　神代の　物事

物質の名の心　遠し

聖へ鎮まる　碁の相な

数をあつむしづ　まして

古鳥へ足る　繁を森

まゝびや

神酒の日なり　式あり

り人数のそむ　病く　上り

朝晴てある　備まの森

いつそれ

足衣をはるさ　雨宿り

与お半最さてね　楽焼て

茶のハやへ上りて　雪宿ら

召まが見て喰へ　鏡の紐

唯色がかしさ　起との笠

面つゝ蔵の名で呼れ

上々なる

三ツ八重の椿しまれ

八重咲 呼名 延喜

吉野でも多く見る所

久つも負ケ組 伽羅蘭

が長ず越つてきた 新道

雪人を拵しがれ 琵琶

庵を設る 源義信

ヤ出姫

下も長つて長る 逆鬼少

雪の高嶺の 御を 御

濡と戻る 濡見のる

樹は下の内る長る 下見

能留山下る 小角力

曲場の水きき 脱出せ

時下を 逃る ぬけ来る

紙くゝ

梅し宮が矣口て 出る

葉桐る 怨の入る 蛭

五重の塔の所入佛
新高橋へ渡し入
嘸のなごなん 老所
舟くゝ日の 老所
奇葉く
一面に渡ひ 雪の朔
舟の陸 かつて 寒
負こゝ歩つても 初寄の蔵
ふるん上り
悪るのちびゝ

倉庫の紫陽花 陰ゝ心乱
井戸端の井戸出るゝ用
小作ゝ出ぬ 八新家
水面に映る 就て旅離卞
手人玉ハ志ひ 梅干
賛ゆて
石菖 防ふ 結ふ 卯女
ふるゝ日七逢る 主張の嘘
帝内の月を 八陳の里
ふる日曠る 菖蒲の日

屋けよ

隣士の主婦のもてる夏
二階の下に貸座敷
うどんやの中の為
若宿し
主婦で流を雲ふ伴嘉
古信濃の流れる小菊カれ
現見へ招く　月の夜
伝達して
毎へハ夏を　探しに

近い所へ参る　三五
様子を伝る　伝聞事
伝ハ夏の夏
親の夏　閑ふ　疑屋
遊郭の　張を張る　又
伝聞　話　下女の噂
親戚でも
さらに構ふ　娘達
夏を命でなく　香の煙
見て猿の云　玉生形を

酒利て居
四人ゝよ　往来の日
婢女奉仕する　小姓
酒を出で　奴
頃　私が見る　京の所
女房と寝る　立ち
ゆうべ泊て
さ伏所　文章の味
書物へ作ふ　ほう倒
嵯で　茶女房

[illegible]の多紙
歩の下がる　白ひる
うやく
時一見る　多倍こざれ
濁し　瓦　記念
女房ゞ　多敷第
[illegible]　矢宮
吉の門形　宮名
目を喰口て
お計髪ゞる　物乞人

丁稚が家の擬ひ　本に
下女に振らるる　丁稚
涼しき船
うたた寝する　芝居
奥の人目にも　扇几
留守して　見せ　擬子に
手前がけなく　借金を　掲
和を伸して
岩の、おとし　合せ　つつふ　妻ぅ
台所の時雨を　見る　高瀬

浮世く
親子女まき船　芝居
非道に参詣て　僅む
着る行るて　母の膝
地獄へ落て　小袖きれ
室まで鷹の鳥子　付し
女孫の文まで　逆業
光ま妻の　役かくし　絶
浮気に臨む　女人狂
猿信が　気分　岩の道

琴小出羽
嘉永七
小判の光を
ふし人ふかき
出世はるの
稚を結ぶ草を
朔の日野
麻酒賞ふ
高野の先を
精進明日
桂屋

次第〳〵
味噌の醤
借ふ〳〵
庶八紫戸
高の近
夏の風ふ
ロドヤテ
鯨八
伺の女の
雨宮を



門間
るとれ
放
三日の海
る新
富士の夏
いて仕ふ
雪

紫式部さうし

[illegible]道の[illegible]文句第ふ章を

女房と[illegible]ふ[illegible]句

[illegible]御[illegible]ふ　[illegible]され

[illegible]仕る　賀ト連

[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]氏　男[illegible]を

[illegible]さふ　京の伯母

氏[illegible]む　[illegible]

[illegible]

[illegible]物品[illegible]　百田[illegible]

[illegible]出る　[illegible]仕る

[illegible]

昔を[illegible]ん　母

百歳[illegible]て[illegible]者

[illegible]京より名を　御[illegible]士

百歳で[illegible]

[illegible]

[illegible]の旅　[illegible]

[illegible]入を[illegible]る　惣[illegible]

上戸の仕る下戸
とりさしと
たさ物うと毒ケの極ケ
別号の順　寺師中
熊山もはる　堀内書
お山の名さを拾　毒ケ
强肴の毒ゞ多る能
夫この麻酒へ来る麻
仙しゞ下戸



彩れの毒ん　京の伯母
多の結ふ　彩道
はもくれ酒を毒仕る事
主行のケ
参平間の毒ん　湯屋廣中
陽子のくぶ　高宮中
鶴岡して　常仕
毒仕て毒ケ　高俗
こ味まで　麻　弥吉
虐毒で　毒　毒

さて名の高き所は誓ひ
きいしるふ
貞女も義も難き修業
孫の　古屋の　完
下戸う祝ふ　女代妻
本屋の駒も　酒好寺
揚屋高まる　新宮居
右の名へ
歳を子の語後さ高車
知ごいてゆぶ　徒然子



屋つ忍める　駒ひ雲
助業　名ふ　老女房
かきて
鉄の取ずぶ　吉む酒
姫紅さ　山ふ　鬱屋
剣い　山を　紅　妹
玉井の　移る　作
剣ま　酒屋
曲輪の　業屋　酒屋
小判の　屋ま　吉兵衛

向ふへ潜る　源の弟
ゝ武蔵国　新造寅
　　梅の咲
世を捨て　苔の名
磨く　東山家
陽氣なる　鶴寿
　　祈るのに
松の位の　きをはぐ
鄰る人　飛ぶる石仲任
新へ　遠る蓑

二階から
顔出して　新造寅
五郎遠を　蓑まる　長
山をとて　能をの
　　蓑角
仮面　丸い　新民主
自角を　殿の
物を入る　新俗の　七五史
丸ふ行　丹角
仕形や　丸い　二本を

井戸掘て
鑽極々する　天龍氷
響き揃ふ　古戦場
森そろばん
解き氷へ　走る魚
行きぐれきふ　幟主
又了背十かく　涅槃師
山を指ざし
吁しのたさ　古塵師
抱て出る子　檐様夢

返りて色
稲綸文の　残て身
秋人為の　かざり遊
縁のかたを　浮浪連
閑さ
夜々夜叢のかぶ蔵を
地獄も変だらての御開
餓者のきさま　綾完病気
いつまでも
のこと鳩嵐の沖のうさ

[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
朝の月[illegible]る京の岩
肩のもんど[illegible]
如意輪観音[illegible]
京かも
口[illegible]る　大王寺
江戸[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]で[illegible]

音[illegible]
[illegible]石屋[illegible]
[illegible]の[illegible]
風呂でハ[illegible]の[illegible]
利[illegible]
行[illegible]　物語
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

錫杖(しゃくぢゃう)ある　公家(くげ)盲目(めくら)
寺う拂一と　ころころと
石の花苑へ　初雪
夜う来て
嶋原出る　番(ばん)卿(きゃう)も
新面を開る　新郎人
新女房が　讃(ほめ)られ出
ほんとさほので　ほどこされ
蒲巻のほしい　出所
手燭る

白鶴青くて　喰ふ
面白いふ　かふ女(めうと)支
断(ことわり)濃し
其の髪に有れ　鬢(びん)鏡
台上るや武士へとんと
其のふこ　とくと　有馬人
狼子揃って
京なぶら濃く　田舎(いなか)者
縮緬(ちりめん)仕て居る　京の宮
西陣(にしぢん)へ来ふ　笑顔の舟

北極て

月よ眠の行 永安寺

石牧氏の 金 所

[illegible] [illegible]の[illegible] 峰の嵐

[illegible]おちて

廿房でしやる 新田茶屋

廿の[illegible] うづら[illegible]

昌庵カナで 又の[illegible]

[illegible]て 瀬

物[illegible] 借りて 新[illegible]

お汁の智[illegible]かる 仲居

宗中の[illegible]る 稲の[illegible]

[illegible]して

[illegible]を [illegible]者も

出[illegible] 待[illegible]

加[illegible] 月の[illegible]

仲居[illegible] 雪の[illegible]

[illegible]

[illegible]よ [illegible]

子イ [illegible] 澄[illegible]

[illegible]ナス 野[illegible]屋
屋へ 鶴をさく 法[illegible]
貴屋へ 行さし 以 [illegible]食
[illegible]
[illegible]道ぶ [illegible]
下戸でハ [illegible] 紀者
鶴ハつる [illegible] 数[illegible]人
陽上ふ [illegible] 鶴[illegible]
仲人を 逢ふ日 化粧[illegible]
七[illegible]



[illegible]ハ [illegible]日ハ [illegible]
自[illegible]仕て [illegible] 鶴の [illegible]
[illegible]風を 遠入を年 [illegible]
[illegible]ハ [illegible] 母の [illegible]
十五 [illegible]
十念 [illegible] 拝か [illegible]
[illegible]仕て [illegible] 大[illegible]名
[illegible]世を [illegible] 墨[illegible]
[illegible]一 [illegible] 桐の[illegible]
[illegible]ら [illegible] 宝世寺

[illegible]秋のうち
湯泉の[illegible]ふる男
むうあをそしもも 姫
又お[illegible]つる 甘兵衛
地獄とはそぶ 石花のつよ
万よし
蟻脊の中にてこの滝
ふてこの音ひて 健[illegible]
磨ミ[illegible]よ 左り石物
太音つむ 成兵

千秋乐
門の[illegible]橋 [illegible]橋
日の丸をかゝよ 橋
弁面[illegible]明ケ遮[illegible]
神[illegible]て 祝 出
親年と仰 雨[illegible]
[illegible]の[illegible]
徒初のつゞ同 夫[illegible]
道[illegible]きふ 朝 切
紳人〳〵 花音 [illegible]

カ切

又の肩しむ 雲さう
跡 拍 おりて こる 美
髪をおさへる 病上り
少 ゆ 拍 子の目
光の撫る 角力
つぶさで
玉切上る 美ふ妻
比丘尼うたる たこ
ろ き

如意法十八 鏡の女
除也 雨夜の星 女ま
疫病の呪 法 師

八宗九宗

日一流 の 凡 籠る
玉 く 参 道 石 吾
陸 な る 故 傾 ま
地 去 所 る お 山 賀
陸 の て か 住 鬼 摩 の 姫
宗 歌 の 遠 ふ 瓢 ち ん や

九ゝ習口て
車淺かを 陸奥
親よ自慢の 氣用口
重のうゝる
小イとふ子ゝ ゝる二見
鶴子の 隨の 杉蔭元
四角でも
はらゝうんで 小信
九いゝの ゝる 玉子燒
ゝらゝ所の 淺ゝ ゝん

梅の咲
ゝなる 燒芋
中の ゝ
小ゝの 茶屋 夜船
ゝ年よ一度
銀子の安いハ 十日市
仲蔵ゝ ゝ 雜煮
人ゝ銀 ゝる 已ゝる金
ゝ ゝハ
米の値ゝる 植丁

同じさぬで居る代分賣
[illegible]の[illegible]が[illegible]で人
麻酒の味ひ　同の又
金所一[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]　夫を同
[illegible]の羽[illegible]の八情願
[illegible]
[illegible]へ麻[illegible]る　遠[illegible]
[illegible]小歩行　毎の糠
[illegible]

去う[illegible]の[illegible]で麻[illegible]る
延[illegible]
きつ[illegible]
[illegible]式の[illegible]　酒の[illegible]
[illegible]る　百壽の相
朝日　朝麻　仕る[illegible]
[illegible]の[illegible]　丁兒
[illegible]　自殿　雪の[illegible]
[illegible]る　雪の[illegible]
[illegible]の[illegible]本　仕る　仕居

寺の金子ス　老女房
紙の法い　荒婦ス
雪弦で　さくふ能除桑
妻を遠ざ　妻の自慢
神仏　水茶　松屋町
ゆくなりで　涼ム妻ッ
母も除かく　咲ぞし
双親が笑る　あやぐ
玉梓かる玉　家る
嗅を伝い　辻乾屋

御酒振ふ　切炭屋
出世付き除かく　家を
ゆくなり又　公仏作
如意を　花屋敷
花の数　掛く
豆腐ス　京呼
口笑ス　豆腐
逆ス　白雨ス　水おタス
長崎の減を　角の生
法も　別除も　ちんぞ紀さ

縁ふて　一口ヶ尾

懸られ去らす　百との媚

妹子築ける　踊り堂

床店で営みて　釈迦如来

青田も蚊教子　嫁入乳母

文字のちぎれて　寄かるる

諸事云さん　飯いうさ

門口明けて　きる後妻

惚して人に　お茶と汲む娘

二人りの袢を　作縁一枝

折句選　全一冊

同　ちゑ袋　全一冊

冠附うろいよる　全一冊

高判蕣句集　全一冊

画合ものかた鏡　全一冊

文政二年
卯七月

大阪書林　高麗橋壹丁目
藤屋善七